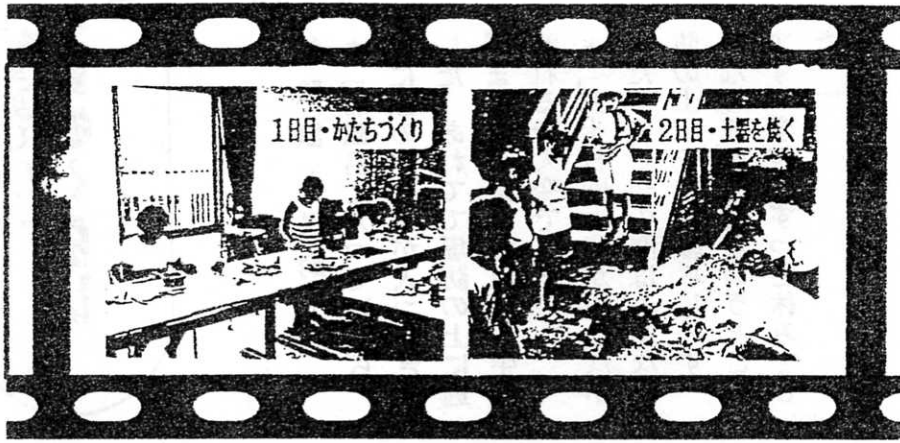


ドキ！ドキ！土器づくり

縄文式土器をつくろう

◎7月26日と8月3日の2日間別府公民館で野焼き粘土を使って土器を作りました。古代の想像以上の技術に驚きの連続でした。

夏休み体験学習講座の開催



郷土撰津 いにしえ通信

平成十年九月一日

第五号

発行

摂津市三島一丁目一番一号
摂津市教育委員会
生涯学習部 生涯学習課

文化財講座

山田川とその周辺の歴史探索

開催日

平成十年十月四日(日)

集合時間

午前九時十分

集合場所

摂津市役所 玄関前

解散場所

阪急山田駅

対象

市内在住・在勤者

定員

参加料

無料

◎当日は、各神社仏閣の関係者および郷土史家を講師におまねきして、金剛院・伊射奈岐神社・圓照寺などを探索します。

申し込み

九月一日より、電話又は直接生涯学習課まで

☎〇六一三八三一一一一

〇七二六一三八一〇〇〇七

(内線) 三二一三

お知らせ

大阪府内で開催される展示・講演会・シンポジウムなどの情報をいち早く、お知らせします。

学会員が語る 邪馬台国時代
弥生文化博物館 考古学講座

と き

九月十三日 午後二時～四時
(午後一時より受付)

とこ 和泉市池上町四四三
大阪府立弥生文化博物館

参加料

平常入館料のみで、ご聴講いただけます。一般三〇〇円

高大生二〇〇円 六五歳以上中学生以下は無料。

☎〇七二五―四六一二―六二

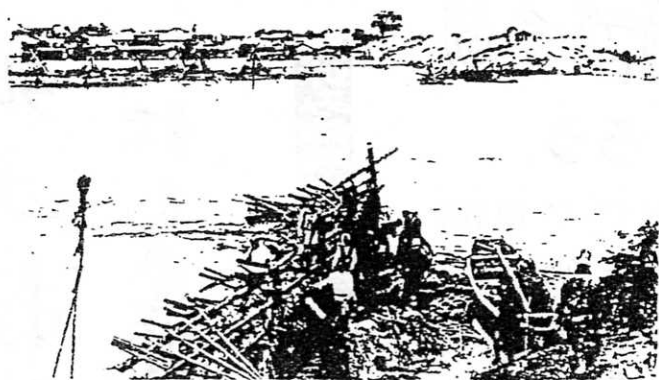
◎最近の重要な発見の意義に当時の国際的な見方も加えて、邪馬台国とその時代をわかりやすく解説する講座です。



おじいさん・おばあさんに聞きました
 摂津市域 ちよつと昔のくらし
 その5 大きな自然災害

「大塚切れ」 大正六年

・高槻の大塚で淀川の堤防が決壊しました。同時に芥川、安威川、神崎川も決壊して、淀川右岸全域で大災害となりました。



→ (写真は「大塚切れ」堤防復旧工事)

体験談く鳥飼上
 *「お風呂に入っていたら、急に家の中に水が入ってきまげました。あわてて堤防の上に逃げるので大変でした。」
 *「五十日間も水が引かなかつたので、その間はみんな堤防の上でテント暮らしです。今なら仮設住宅というところですが、学校もずっと休みでした。」

「室戸台風」 昭和九年

・大阪の気象台では、風速六十メートルを記録したまま機械がこわれてしまったといわれています。台風が大阪を直撃したのは午前八時過ぎで、子どもが登校し始めている時でした。味舌小学校では二階建て校舎が倒壊し、児童五人

がその下敷きとなって死亡しました。二十人が重軽傷を負いました。鳥飼小学校でも二階建て校舎が倒壊して、逃げ出した児童一人が、倒れてきた校門の下敷きになって死にました。天気予報のなかった時代の悲劇です。

体験談く味舌下

*「登校していた子どもたちは、校舎を飛び出して、山田川の堤防の内側に避難したから、本当はみんな助かったのです。ところがなんでやられたのかというと、その日が貯金日やったからです。持ってきたお金を置いたまま逃げ出したことに気付いた子どもが、何人も校舎に戻ったのです。そこをパンとやられたのです。あの頃はみんな貧乏だったからです。」

「水不足」 昭和二十一年二十二年

・二年連続の日照り続きで、普通の年なら水の多さに悩む場所まで田んぼの水が無くなって、稲が枯れました。

体験談く市場
 *「市場池の水が干上がった、底で野球ができるほどでした。」

「台風十三号洪水」 昭和二十八年

・台風の強い雨で、淀川上流の芥川が決壊して、淀川右岸一帯が水に浸かりました。

体験談く鳥飼下

*「鳥飼の堤防がぐずぐずになつて切れかけたので、みんな必死の防衛工事をしました。その最中に上流で切れたのです。」



→ (十三号台風の洪水時、淀川堤の避難生活) 担当 (源)

郷土史コーナー

◎前号の『味舌の村々』の続き

庄屋村 味舌郷五か村の一つ

東は茨木村（現在の茨木市）

への道を境に坪井村に、北は味舌上村に接し、中央を山田川が流れています。集落は山田川の左岸にあり、山田村（現吹田市）への道が通っていました。文禄三年（一五九四年）の検知で二二〇石余が高付され、以後村高は若干の新開分を加えるのみで、江戸時代を通じてほとんど変化をしませんでした。領主の変遷は上村や下村と同じで、江戸時代の初頭は織田長益（有樂）の知行地となり、長益から子の大和戒重藩（後の芝村藩）藩主長政に譲られた。幕末まで同藩が治めました。文禄検知段階で高請百姓一二八人のうち当村百姓は六八人で著しい入作状況を示していました。稲作が中心でしたが、農間余

業として、男は縄・俵・莖作り、女は木綿織に従事していました。村内に古道具屋二軒 塩肴屋・干物屋・綿打屋各一軒がありました。

用水はおもに山田川と溜池に頼っていました。溜池には味舌下村と立会の牛屋池と明和七年（一七七〇年）築造の明和池がありました。明和池の築造など水利にかかわる諸普請と、その維持費は村財政を圧迫しました。

寺院は永福寺があり、鎮守は須佐之男命神社です。当村には御旅所がありました。

正音寺村 味舌郷五か村の一つ

山田川が中央に流れ、上手は庄屋村。集落はおもに山田川の左岸にありました。村の東端を茨木村への道が、西端を山田村への道が通っていました。文禄三年の大田郡内味舌村ノ庄屋村御検知帳及び大

田郡味舌之内下村御検知帳に「正音寺」の地名がみえます。慶長一〇年（一六〇五年）撰津国絵図には「小音寺村」と表記されていました。村名はもと当地にあつた寺院の名にちなむといわれていますが詳細は不明です。味舌郷のなかで当村のみ領主を異にしています。享保二〇年（一七三五年）の摂河泉石高調によると淀藩領は三三一石余で幕府領は九石余ありました。この幕府領の地域を「味舌村」と呼んでいました。明治二二年（一八八九年）まで「味舌村」の行政地名のまま残りましたが、特定の地域・集落をもつものではなく、正音寺村域に散在した飛地の集合体を意味したと思われる。幕府領味舌村は文化七年（一八一〇年）以降高槻藩の預地になりました。

正徳二年（一七一二年）の

覚によりますと正音寺村には八石余の大工高所持者が一人いたようです。また菜種の栽培・絞油も行われていたように、慶応元年（一八六五年）

の御用油の在方引受と在方での日用油小売許可をめぐる闘争では、摂河一二六三か村の島下郡淀藩領一四か村惣代村となっていました。

用水は山田川からでしたが、用水源を同じくする村と水論が起きていたという文書が残っています。

寺院は慶徳寺で、鎮守は須佐之男命神社です。

（つづく）



→ 近世の摂津市域の村域

は味舌郷五か村の範囲。

（摂津市史 別巻より）

担当 (茗荷)

考古雑話

第 5 回

わかりつつある縄文時代の生活⑤

三内丸山遺跡の発掘と縄文時代の生活

三内丸山遺跡の特徴として「大きい」「長い」「多い」という三つのキーワードがよく挙げられます。

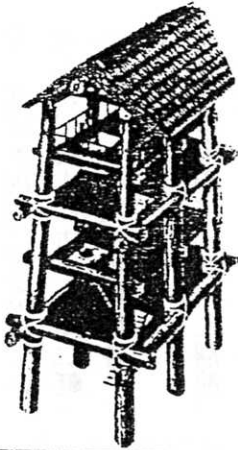
キーワード① 「大きい」

大きいとは、三五竈にも及ぶ広大な土地に、大規模な建築物やごみ捨場などの遺構が計画的に配置されていることから言えます。とくに、直径二メートル、深さ二・五メートルを計る柱穴が、六個等間隔に配置されていた大型掘立柱建物、推定で高さが二〇メートルはあったと考えられています。また、長軸三十二メートル、短軸八メートルを計る大型竪穴住居も発見されました。

これらの建築物の規模から考えても、当時五〇〇人近く

の人口を抱えていた可能性がでてきました。従来の説では縄文村の人口は三〇人から五〇人程度と考えられ、移動・採集生活だと言われていました。しかし、今回の発見により計画的で大規模な建築物に囲まれた定住生活という、新たな縄文時代の生活が明らかになりつつあります

(つづく)



◎大型掘立柱建物推定復元図

(イラスト・石井良三)

千里丘2丁目試掘調査

千里丘二丁目の試掘調査では、明確な遺構は検出されませんでした。しかし、円基石鍬(えんきせきぞく)と呼ばれる打製石器が発見されました。この石器は、瓦器(がき)・おもに中世を中心に広く使

展示解説

◎短期集中連載

大地に刻まれた歴史

用される土器)を含む堆積とさらに下層の河川氾濫堆積の境から発見されました。この状況は、厳密には石器が使われた時代の現位置を保っているとは言えません。しかし、周辺地域や上流の丘陵地域には、この石器が使われた時代の生活の痕跡が発見される可能性が高まったと思われる。



← 千里丘2丁目出土 円基石鍬

瓦器・土師器を含む中世の堆積



河川氾濫堆積

【お】 大森貝塚

○東京都大田区にある縄文時代の遺跡です。明治十年に、モースが線路に面するこの遺跡を車窓から発見したと言われています。



○モースは、この貝塚の発掘にあたり、科学的な調査を導きました。実測図、簡潔で適切な報告書など、これらの業績は、現在でも高く評価されています。

担当 (伊部)